

静岡がんセンター病院事業経営見通しに対する令和元年度の自己評価

1 概要・経緯

- 平成 28 年 3 月 31 日、「公立病院改革の推進について」（総務省自治財政局通知）が示される。
- 平成 28 年度から令和 2 年度までを計画期間とした「静岡がんセンター病院事業経営見通し（静岡がんセンター病院改革プラン）」を平成 29 年 3 月に策定した。
- 今回、令和元年度の事業について、次のように評価した。

2 静岡がんセンター病院事業経営見通しに対する令和元年度の評価

○ 計画(当初予算)、実績

(単位:百万円・税込)

年度		H30 実績	R1 計画	R1 実績
収入	医業収益	27,355	27,504	29,968
	医業外収益	7,191	7,466	7,029
	経常収益(A)	34,546	34,970	36,997
支出	経常費用(B)	34,461	34,958	36,756
経常損益(C=A-B)		85	12	241
特別損益(D)		▲16	0	▲83
純損益(C+D)		69	12	158

○ 数値目標の実績・評価

年度	H30 計画	H30 実績	達成度	R1 計画	R1 実績	達成度	
経常収支比率	100.0%	100.3%	◎	100.0%	100.7%	◎	
医業収支比率	80.0%	81.9%	◎	81.9%	84.4%	◎	
職員給与比率	45.2%	44.4%	◎	45.3%	42.8%	◎	
病床稼働率	90.0%	89.7%	○	91.0%	91.1%	◎	
患者診療収益	入院	65,064 円	69,030 円	◎	69,572 円	70,202 円	◎
	外来	41,176 円	43,909 円	◎	42,754 円	49,466 円	◎

* 患者診療収益:患者1人1日当たりの診療収益

* 病床稼働率:(在院患者(24時現在在院患者数)+退院患者数)÷稼働病床数で算定

※達成度:◎=計画以上、○=概ね計画どおり、×=計画以下

【令和元年度評価】

- 令和元年度は、主に業務の効率化による時間外縮減、診療報酬改定への対応を進め増収を図るとともに、病床稼働率、重症度・医療・看護必要度Ⅱ、手術件数を目標に掲げ、経営努力を行った。
- 引き続き、各診療科と病棟が連絡を密に取ること等による病床の効率的な運用に取り組むとともに、状況を経営戦略会議等の会議で報告、進捗管理を行った。

- ・ 1日当り手術件数は 19.8 件と目標の 20 件に到達しなかったものの、病床稼働率 91.1%、重症度、医療・看護必要度Ⅱ 30.7%とそれぞれ目標を達成できた。また、一日一人当たりの入院収益、外来収益ともに計画値を上回った。
- ・ 当初の計画では純利益は 1,200 万円を見込んでいたが、薬品単価の上昇や給与費等の増加があったものの、患者数の増加、診療単価の増加に伴い医業収益の増加により、純利益は 1 億 5,800 万円となった。
- ・ プランの点検、評価にあつては、病院幹部会議及び経営戦略会議で審議する。

3 今後の方向性

- ・ 病院事業の黒字の維持のため、適切な目標設定と進捗管理、その他の管理指標の分析等を行い、必要な対策と改善により、引き続き、効率的な運営に努める。
- ・ 静岡がんセンターは、駿東田方医療圏唯一の高度先端医療の提供を行う特定機能病院、都道府県がん診療連携拠点病院として診療業務を行っており、静岡県在住者を中心とした患者さんに対する高度専門医療の提供が期待されていることから、引き続き、高度急性期機能、急性期機能の提供に努める。また、世界、日本のがん医療の現況を意識しながら、「がん医療のフロントランナー」としての活動を進めていく。
- ・ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、市町のがん検診が中止となったことや患者の受診控えなどにより、病床利用率が低下し、減収が見込まれ、様々な経営努力に取り組んでいるが、約8億円程度の赤字を見込んでいる。
- ・ 令和3年度については、市町の検診が再開されることや、ワクチン普及による受診控えがなくなること、当院においてクラスターが発生しないといった前提条件のもと、病床利用率の低下を防ぐことができれば、外来患者数はコロナ禍であっても低下していないことから収支が悪化することはないと見込んでいる。また、支出については、設備の更新・修繕等支障のない範囲で先送りすることや、薬品・診療材料の価格交渉などにより経費節減を図り、黒字確保に努めていく。
- ・ なお、令和2年度の評価については、決算・実績が確定次第、改めて行うとともに、令和3年度以降の公立病院改革プランについては、総務省から発出予定の公立病院改革プランガイドラインに応じ策定する予定である。